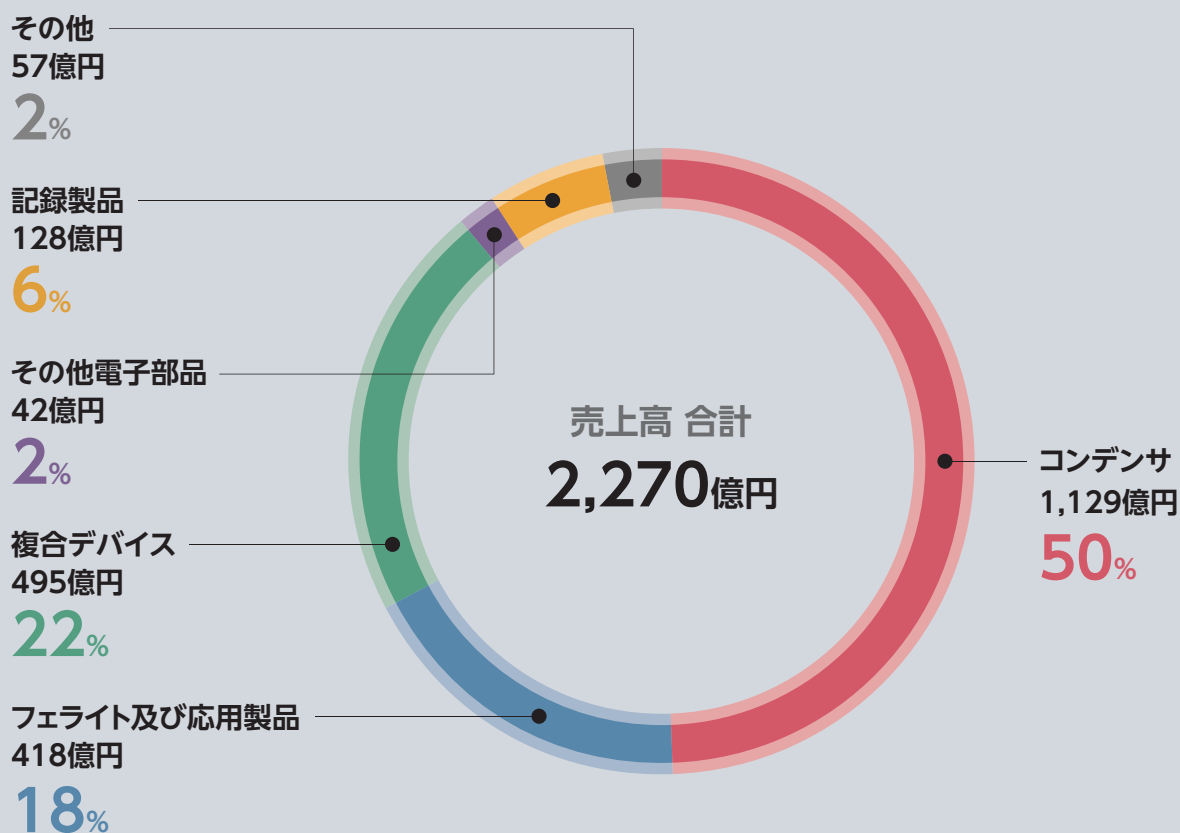


製品区分別売上高構成比

2015年3月期



製品区分の変更

2015年3月期まで

製品区分	主要製品
コンデンサ	積層セラミックコンデンサ
フェライト及び応用製品	巻線インダクタ 積層チップインダクタ
複合デバイス	モバイル通信用デバイス(FBAR/SAW)、 電源モジュール、高周波モジュール、 部品内蔵配線板
その他電子部品	エネルギーデバイス、バリスタ
記録製品	CD-R、DVD-R、BD-R
その他	関係会社の実装事業 他



2016年3月期より

製品区分	主要製品
コンデンサ	積層セラミックコンデンサ、バリスタ
フェライト及び応用製品	巻線インダクタ 積層チップインダクタ
複合デバイス	モバイル通信用デバイス(FBAR/SAW)、 電源モジュール、高周波モジュール、 部品内蔵配線板、関係会社の実装事業
その他	エネルギーデバイス CD-R、DVD-R、BD-R 他

主力事業であり、さまざまな電子機器に向けてスーパーハイエンド商品、高信頼性商品をはじめとする高付加価値なコンデンサを展開しています。

2015年3月期の業績

民生機器向け、情報機器向け、通信機器向け、自動車・産業機器向けの売上が前期と比べ増加したことにより、売上高は8.3%増の1,129億3百万円となりました。

2015年3月期の主な取り組み

積層セラミックコンデンサについては、誘電体の材料技術、薄膜・大容量化技術および超小型品生産技術等を高度化し、誘電体厚みがサブミクロン(1 μ m未満)レベルでの安定量産技術を確立しました。さらに1,000層を超える多積層技術を開発し、電解コンデンサ市場を置換する商品として4532サイズ(4.5mm \times 3.2mm)470 μ Fの量産化に成功しました。

また、スマートフォンなどの成長機器市場に向けて0402サイズ(0.4mm \times 0.2mm) 0.22 μ F、0603サイズ(0.6mm \times 0.3mm) 2.2 μ F、1005サイズ(1.0mm \times 0.5mm) 22 μ F、1608サイズ(1.6mm \times 0.8mm) 47 μ F等の最先端商品の量産を行いました。

さらに、超小型品や超低背品にも注力し、0201サイズ(0.25mm \times 0.125mm)、0603サイズ薄さ0.15mm、1005サイズ薄さ0.11mmの量産も開始しています。

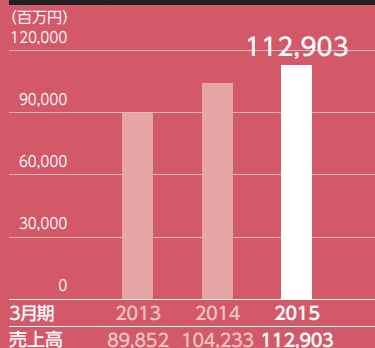
今後の取り組み

スマートフォンなどの成長機器に向け、積層セラミックコンデンサの超小型品、超低背品や各サイズにおける最先端商品であるスーパーハイエンド商品を強化していきます。

また、自動車電装や産業機器、ヘルスケア、環境エネルギーといった注力すべき市場に対しては、高品質・高信頼の商品ラインアップを強化します。100 μ F以上の大容量ゾーンにおいては、電解コンデンサを置換する商品を積極的に展開することで積層セラミックコンデンサ市場の拡大を促進し、さらなる成長を目指します。

一方、生産体制においては、子会社の新潟太陽誘電に新工場を建設するとともに、国内で生産しているハイエンド商品の海外展開を引き続き加速し、海外拠点の最大活用を図ります。また、生産効率向上のために必要な投資を行い、国内外すべての生産拠点において高効率生産に努めます。今後も、スマートフォンなどの成長機器や自動車電装などの注力市場における需要拡大に対応した生産体制の構築を図ります。

売上高の推移



主な商品

積層セラミックコンデンサ



超小型積層セラミックコンデンサ
0201サイズ(0.25mm \times 0.125mm)



超低背積層セラミックコンデンサ
1005サイズ(1.0mm \times 0.5mm)
薄さ0.11mm



小型大容量積層セラミックコンデンサ
4532サイズ(4.5mm \times 3.2mm)
470 μ F

メタル系パワーインダクタ「MCOIL™(エムコイル)」や高周波インダクタなどを中心に展開しています。

2015年3月期の業績

民生機器向けの売上が前期に比べ減少したものの、情報機器向け、通信機器向け、自動車・産業機器向けの売上が増加し、売上高は20.4%増の418億34百万円となりました。

2015年3月期の主な取り組み

積層チップインダクタでは、スマートフォンなどのDC-DCコンバータに使用されるメタル系パワーインダクタ「MCOIL™」のラインアップを強化しています。1608サイズ(1.6mm×0.8mm)と2012サイズ(2.0mm×1.25mm)においては、定格電流を従来比2倍に高めた商品や、薄さ0.6mmの低背品の量産を開始しています。携帯機器の高周波回路に使用される高周波積層インダクタについては、0603サイズ(0.6mm×0.3mm)および0402サイズ(0.4mm×0.2mm)にて、Q特性を向上した業界最先端レベルの商品を量産、インダクタンス値の拡大を進めています。また、スマートフォンのノイズ対策部品として、小型共通モードチョークコイルの0605サイズ(0.65mm×0.55mm)を展開しています。

巻線インダクタでは、「MCOIL™」のラインアップ拡充に努め、小型、大電流化のニーズに対応したMAシリーズハイスパック品を開発、商品化しました。また低インダクタンス化のトレンドにマッチする1μH以下のラインアップを充実させました。

今後の取り組み

積層チップインダクタや巻線インダクタでは、お客様のニーズに沿ったスーパーハイエンド商品の展開を加速します。特に、パワーインダクタに関しては、より一層の小型大電流を可能としたメタル系材料を採用した「MCOIL™」の商品ラインアップを強化し、戦略的な市場投入と生産能力の拡大を行います。また、高周波積層High-Qチップインダクタおよび超小型積層チップインダクタのラインアップを拡充します。

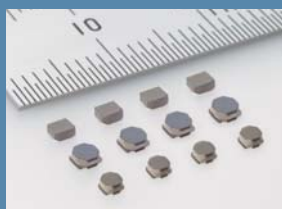
生産体制については、海外拠点を最大活用し、同時に国内外すべての生産拠点で高効率生産に努めます。また、スマートフォンなどの成長機器や自動車電装などの注力市場における需要拡大に対応した生産体制の構築を図ります。

売上高の推移



主な商品

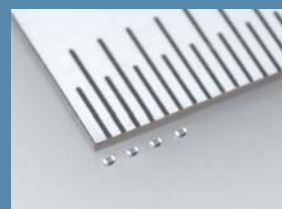
メタル系パワーインダクタ「MCOIL™(エムコイル)」、巻線インダクタ、積層チップインダクタなどの各種インダクタ商品



メタル系パワーインダクタ「MCOIL™(エムコイル)」



高周波積層High-Qチップインダクタ



超小型積層チップインダクタ

スマートフォンをはじめとするモバイル通信機器の普及とデータ伝送の高速化で需要が拡大する通信デバイスなどを展開しています。

2015年3月期の業績

電源モジュール、高周波モジュールの売上が前期に比べ減少したものの、モバイル通信用デバイス(FBAR/SAW)の売上が増加し、売上高は16.8%増の495億10百万円となりました。

2015年3月期の主な取り組み

スマートフォンのキーデバイスであるモバイル通信用デバイスでは、SAW技術およびLTCC技術をコアとした商品の開発を行いました。急速に拡大するLTE方式に対して、小型で低消費電力のフィルタデバイスや整合回路を付加したフロントエンドモジュールなどを開発し、提案しました。さらに、FBAR技術を駆使した商品の開発にも注力しました。

複合機能モジュールでは、市場からの省エネ、小型薄型化に対する強い要求に応える各種電源モジュール、複合機能モジュール技術の構築を進め、多数の差別化商品を投入しました。特に独自開発の部品内蔵配線板[EOMIN™(イオミン)]は、スマートフォン用カメラモジュールの小型薄型化に大きく貢献することができました。

無線通信モジュールでは、近距離無線通信市場の拡大に

合わせ、小型低背モジュールに加え、自社製アンテナ搭載モジュール等、幅広いニーズに対応した商品を開発しています。特にBluetooth®、無線LANなどの異なる通信規格を同一モジュールで実現するコンビネーションモジュールの開発、商品化に注力しました。

さらに、ソフトウェアまでサポートするモジュールの開発と商品化を行い、デジタル民生機器やヘルスケア分野等の新たな通信市場に向けて提案を行いました。

今後の取り組み

FBAR/SAW技術を核とした高周波事業の展開、当社グループオリジナル技術から生まれた部品内蔵配線板[EOMIN™]を用いたスーパーハイエンド商品の積極的な市場投入とエネルギー市場に向けた回生システム等の電源事業の強化を図ります。

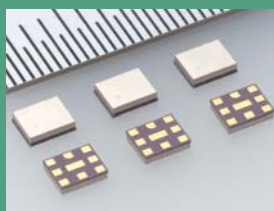
また、モバイル通信用デバイス(FBAR/SAW)では、次世代通信方式のメインであるLTEの普及に伴う搭載点数の増加に対応した生産体制の構築に努めます。

売上高の推移

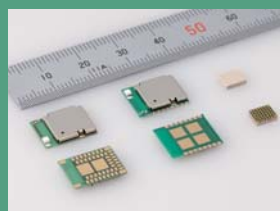


主な商品

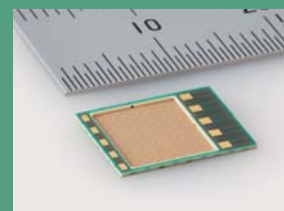
モバイル通信用デバイス(FBAR/SAW)、電源モジュール、高周波モジュール、部品内蔵配線板[EOMIN™(イオミン)]



モバイル通信用デバイス (FBAR/SAW)



高周波モジュール



部品内蔵配線板 [EOMIN™(イオミン)]

リチウムイオンキャパシタ、ポリアセンキャパシタなどを展開しています。

2015年3月期の業績

売上高は前期比19.0%減の42億78百万円となりました。

2015年3月期の主な取り組み

高信頼性市場向けに、電気二重層キャパシタとリチウムイオン電池の特性を併せ持ったシリンダ型リチウムイオンキャパシタの生産を拡大しており、大型リチウムイオンキャパシタではサンプル活動を継続しました。また、シリンダ型ポリアセンキャパシタの拡販を進めました。

今後の取り組み

先端技術分野での用途開発とエネルギー分野への拡販を展開します。大型リチウムイオンキャパシタでは、主に高信頼性市場でのマーケティング活動を継続します。また、2014年11月に資本業務提携したエルナー株式会社との共同開発・生産、資材調達協力などを推進し、競争力向上と事業拡大に努めます。

※ エネルギーデバイスは2016年3月期より製品区分「その他」に区分変更となります。

記録製品事業は記録メディアの開発・生産、その他事業は主に子会社での実装事業です。

◆ 記録製品

2015年3月期の業績

売上高は前期比9.6%減の128億59百万円となりました。

今後の取り組み

これまで収益性の改善に努めてきましたが、想定を超える市場の縮小および原材料価格の高騰等の影響により、さらなる収益改善は困難な状況であると判断し、2015年12月末で記録製品事業から撤退することを決定しました。

※ 記録製品は2016年3月期より製品区分「その他」に区分変更となります。

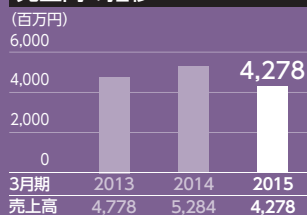
◆ その他

2015年3月期の業績

売上高は前期比22.3%減の57億8百万円となりました。

※ 子会社での実装事業は2016年3月期より製品区分「複合デバイス」に区分変更となります。

売上高の推移



主な商品

エネルギーデバイス



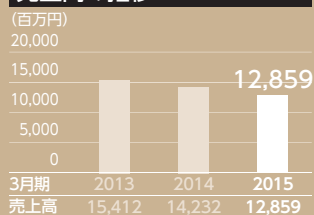
シリンダ型リチウムイオンキャパシタ



薄型ポリアセンキャパシタ

◆ 記録製品

売上高の推移



主な商品

CD-R、DVD-R、BD-R



DVD-R、BD-R、CD-R

◆ その他

売上高の推移

